

# 湘南医療大学 ティーチング・ポートフォリオ

大学名 湘南医療大学  
所属 薬学部医療薬学科  
名前 須藤 遥  
作成日 2024年9月27日

## 1. 教育の責任

私は湘南医療大学薬学部医療薬学科、生化学研究室の教員として、助教という立場で学生の教育・指導に当たっています。本学薬学部で担当した科目は、生物系基礎科学（必修・1年）、生化学Ⅰ（必修・1年）、早期臨床体験実習（1年・必修）、生物系実習（必修・1年）、生化学Ⅱ（必修・2年）、生化学Ⅲ（必修・2年）、医療薬学チュートリアル演習Ⅰ（必修・2年）、生化学実習（必修・2年）、薬学総合プレ研究（3年・必修）です。また、本学保健医療学部で担当した科目は、生物学（1年・選択）、チーム医療論（4年・必修）です。講義科目では、医療人として必要な生物・生化学の基礎知識だけでなく臨床とのつながりも紹介しています。実習科目および演習科目では、円滑に実習が行えるよう学生たちにヒントやアドバイスを与える役割をしています。学務分掌としては、薬学部図書委員、薬学部FD委員、ハラスメント委員を担当し、教育環境の整備に関わっています。

## 2. 私の理念・目的

### 1) 私の理念

私の教育理念は「基礎をしっかりと身に付けた医療人を育てること」です。本学部は臨床に強い薬剤師を育てることを大きな目標に掲げています。この臨床に強い薬剤師とは、本学の理念である「人を尊び、命を尊び、個を敬愛す」に基づいた人間の生命や尊厳を理解できる豊かな人間性と、薬学の医療専門職としての幅広い知識・技術を兼ね備えていることだと考えています。薬が作用するメカニズムや病態を理解するためには、土台となる基礎をしっかりと固めることが重要です。また、現代の医療は日進月歩であり、基礎をきちんと身に付けていることは最新の専門知識や技術を自ら修得する上で大いに役立ちます。

私が大切にしていることは、講義を通して学生自身に「分かった」という経験をたくさん持ってもらうことです。基礎科目は低学年次に配置されているため、初年次から薬学を学ぶ楽しさ・喜びを体感し、将来へのモチベーションにつなげてほしいと思います。学生の皆さんには、ぜひ積極的・主体的に講義や実習に取り組んでほしいです。身に付けた薬学の基礎を応用し、保健、医療、福祉などの幅広い分野で活躍できる薬剤師に成長することを期待しています。

### 2) 理念をもつに至った背景

私の薬剤師としての臨床現場での経験において、学生時代に思っていた以上に基礎知識を必要とする場面が多々ありました。カンファレンスにおける薬の種類や投与量の検討、患者さんやそのご家族への服薬指導、他の医療従事者への薬剤説明、新薬勉強会など多岐に渡り、それぞれの場面で相手に合わせた説明が求められます。自分自身がきちんと理解していなければ、相手が求める情報を提供することはできません。また、自分自身がきちんと理解するためには、基本原理となる基礎薬学の知識が必要です。基礎がしっかりと身に付いていれば、いくらでも応用することができます。私はこのことを身をもって痛感しました。基礎を学ぶ機会は、社会人になってからでも自分で作り出すことができるかもしれませんが、実際には日々の業務

に追われ、まとまった時間をとることはなかなかできません。また、学び直している間に時間は刻一刻と過ぎ、必要な時に必要な情報を提供できず、患者さんの治療に影響を与えてしまう可能性もあります。そのような状況にならないために、学生のうちにしっかりと基礎を固めておくことが非常に大切であると考えています。

### 3. 教育の方法・戦略

教育のポイントとしては、講義時間内に内容を理解できるようにすることと、基礎を学ぶ意義を理解してもらうこと、講義を積極的に受ける環境を整えることです。この目的を達成するために、以下の方法を取っています。

#### ①講義内容を分かりやすくするための工夫

- ・毎回講義のはじめに、各講義回の到達目標を明確に提示しています。
- ・講義にストーリー性をもたせる、あるいは教科書の流れに沿って講義を行っています。
- ・板書を書き写すことだけに集中して話を聞き逃す学生がでないように、パワーポイントの資料を配布しています。重要な箇所を空欄にし、講義中に穴埋めする形式にしています。
- ・文字ばかりのスライドにならないよう、図やイラストをなるべく多く使用し、視覚的に理解できるスライド作成を心掛けています。

#### ②基礎と臨床つながりを意識するための工夫

- ・これまで学んだ知識が臨床でどのように活かされているのか、自分の臨床経験を加えながら説明をしています。
- ・講義科目では、臨床での疑問点から基礎に立ち返るような課題を用意し、自分の考えをまとめる時間を作っています。
- ・実習科目では、実習内容が臨床でどのように応用されているかをレポート課題の1つとして課し、人から聞くだけでなく自分自身で調べてもらうことで、臨床とのつながりを実感できるようにしています。

#### ③学生の積極性を高めるための工夫

- ・薬学部の講義では、アクティブ・ラーニングを取り入れています。何もしない学生が出てしまわないように、ペアまたは少人数のグループを作り、課題に取り組んでもらいます。課題に対する解答はリアルタイムに共有し、また、すぐに解説を行うことで深い学びにつなげています。
- ・保健医療学部では、複数回の小テストを行い、授業の理解度や自己学習の成果を定期的に確認しています。また、講義内にアクティブ・ラーニングを導入し、受動的な講義にならないよう工夫しています。講義後は、復習問題をオンライン上に公開し、自学を促しています。
- ・実習科目では、学生が疑問をすぐに質問できる雰囲気づくりを心掛けると共に、質問されたことに対してすぐに答えを教えるのではなく、答えを導くためのヒントを与えるようにし、考える力を養うことを意識しています。

#### 4. 学習成果

- ・2023 年度の生化学Ⅲの感想として、「今まで学んだ内容から答えを出すのが楽しかったです。」、「自分で考えるのはためになったのでとても良かったです。」、「講義の説明で痛風や生活習慣病との関係性が理解できた。」、「講義資料がみやすかった。」などがありました。
- ・2023 年度の生化学Ⅰの感想として、「分かりやすかったです。」、「グループワークがあつて楽しかった。」、「聞きやすい授業でとても受けやすかったです。」、「講義内容とレジュメがわかりやすかったです。」などがありました。
- ・2023 年度の生物系実習の感想として、「細胞に対する理解度が深まった。」、「授業の雰囲気が良かった。」、「チェックを受ける時にたくさんアドバイスがもらえて良かった。」などがありました。

#### 5. 改善のための努力

- ・講義で用いる資料に関する改善

講義の内容は教科書に沿って配布資料を作成していますが、それだけでなく、他の書籍の図や研究データなどを盛り込み、常に最新の話題を提供することが必要だと考えています。そのため、配布資料の修正を毎年度行っています。

- ・講義の進め方に関する改善

講義や実習の後の学生からの感想をもとに、話すスピードや課題に取り組むための時間を変え、次回の講義や次年度の講義に活かすようにしています。

#### 6. 今後の目標

- ・短期目標

私が担当している講・実習は、複数名の教員によって行われているため、自分自身に対する評価を正しく認識できていません。今後は、2025 年度までを目安に大学が行うアンケートとは別に、自分自身でアンケート調査を行い、講義・実習の更なる改善を行うことが目標です。

- ・長期目標

薬学部で行っているアクティブ・ラーニングは、与えられている講義数がわずかであるため、課題に取り組む時間を十分に取れていません。将来的には、任される講義数が増えると考えられるため、アクティブ・ラーニングの時間をしっかり確保し、学生の積極性・主体性をさらに促したいと考えています。

#### 【添付資料】

シラバス、講義配布資料、ワークシート、実習書、授業評価アンケート、テスト原本、第 9 回日本薬学教育学会大会ポスター演題「基礎と臨床をつなぐ取り組みとしての基礎生物系科目；1 年次後期「生化学Ⅰ」の例」